



AQU 先端テクノロジー総研 《ニュースリリース》 2022/11/1

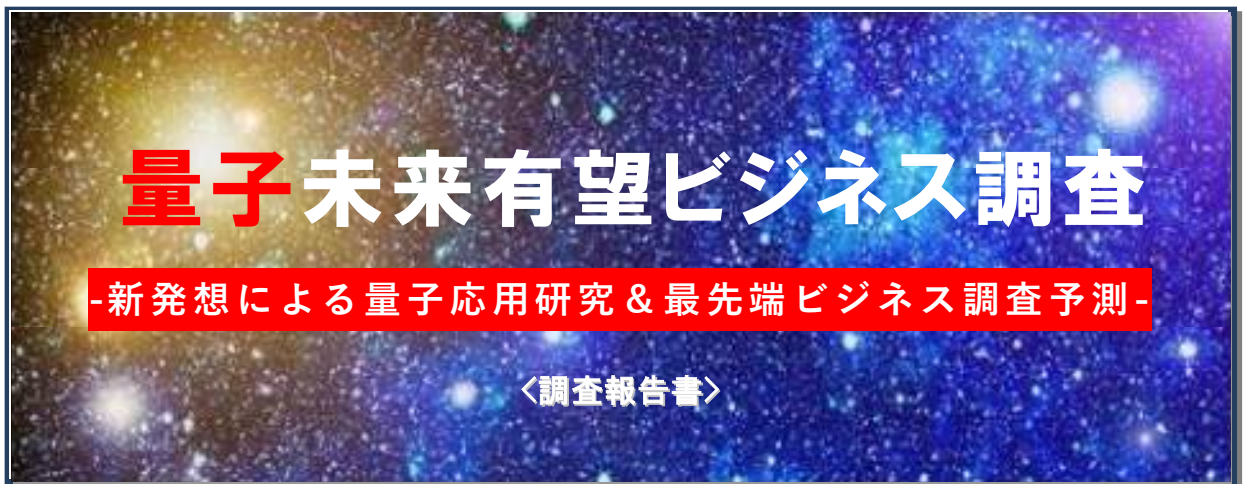
- 量子ビジネスの可能性、量子加工、量子ブレインテック等で可能性広がる
- 新発想ビジネス、量子脳意識関連ビジネスに注目！
- 先端ビジネス調査報告書、発刊 AQU 先端テクノロジー総研

<https://www.aqu.com/quantam-mirai-business/>

<https://www.aqu.com/aqu-news/2022-11-1.pdf>

ニュースリリース

<https://www.aqu.com/>



【ニュース要約】

- 量子ビジネスの可能性、量子加工、量子ブレインテック等で可能性広がる
- 新発想ビジネス、量子脳意識関連ビジネスに注目！
- 先端ビジネス調査報告書、発刊 AQU 先端テクノロジー総研

先端テクノロジーの調査会社である株式会社 AQU 先端テクノロジー総研(千葉市)は『量子未来有望ビジネス調査 -新発想による量子応用研究 & 最先端ビジネス調査予測-』調査報告書を発刊しました。

<https://www.aqu.com/aqu-news/2022-11-1.pdf>

<https://www.aqu.com/quantam-mirai-business/>

■ 発刊にあたって

- 近年、量子コンピュータ、量子暗号通信などの最先端市場が世界的に注目されている。こうした技術の根幹にあるのが、量子(Quantum)の研究である。
- 量子は粒子性と波動性をもつため、「物質」とは振る舞いが異なる。この量子の振る舞いを考察することにより、量子新時代におけるビジネス創出のヒントが得られると考えられる。
- 当調査では、弊社が過去に調査してきた、量子コンピュータ、IT 生命科学、脳科学 BMI・BCI などの重要ポイントも抑えながら、量子ビジネスにおける、新たな視点を持つ、新発想ビジネスとして、量子に関係する脳や意識の関連市場、すなわち量子脳意識関連市場に注目した。
- 量子脳や意識の研究では、2020 年ノーベル物理学賞を受賞したロジャー・ペンローズ博士の主張する量子脳理論や、日本の研究者による受動意識仮説などがある。最近では、人の脳が量子的な機能を持っていることが発表された（ダブリン大学研究者）。人の意識と脳が量子計算によってつながっているとも考えられ、広義的に考えると、意識テクノロジーやブレインテックという世界を含めて量子ビジネスが広がってゆく可能性がある。
- 量子技術はハードウェアとしての量子コンピュータだけでなく、量子暗号、量子通信、量子バイオ、量子マテリアル、量子 AI などの要素がある。現在の量子コンピュータ(国内サービス提供ベース)は、200 億円規模だが、ハードの進化、開発環境の整備、アプリケーションの創出などにより、2030 年には、3,000 億円規模になると予測されている。量子コンピュータクラウドのサービスも整ってきており、実証実験も進みつつある。調査データでは、トータルの量子産業の市場規模は 2030 年に国内市場、1.2 兆円規模、世界市場では、8 兆円規模と予測されている。量子コンピューティングは今後、15 年から 30 年で 4,500 億ドルから 8,500 億ドルの価値を創出するとの見方もある (BCG 社)が、このように世界的に量子産業への期待が高まっている。
- ところで、注目される量子の新発想ビジネス関連としては、量子テレポーテーションの原理を生かした特許技術などがある量子加工のほか、量子ブレインテック、量子療法ヘルスケア、量子マインド瞑想、量子コンテンツ、量子コンサルコーチ、量子自己啓発など多岐にわたる。これらは研究開発途上やスモールビジネスの段階ではあるが、いずれも既存市場において付加価値が増す魅力度を持つことから、市場をけん引してゆこう。今後、量子という名称を持つ製品サービスが数多く登場してくると予想される。市場は大きな可能性が広がっていると考えられる。
- 今回の意識調査では、量子のスモールビジネスに目を向け、水の共振技術や光量子エネルギーなどの特許技術、さらに個人でもできる量子関連ビジネスなども取り上げ調査したところ、「これから副業したい人」では、「量子新発想ビジネスに期待する」は、38.7%と比率が高まっていることが分かった。
- 働き方改革のもと、大企業において副業を認める傾向が強くなっており、厚生労働省なども後押ししている。そのような動きの中で、量子の概念を広義にとらえた量子スモールビジネスでは、中小零細も参加しやすい、特許化された量子技術応用製品の製造、流通、代理店販売等、さらには、個人も参加しやすい、量子脳意識関連ビジネスなど、さまざまなビジネスチャンスがあると考えられる。
- 当調査報告書は内外の市場動向、実際の需要動向調査をふまえ、量子未来有望ビジネスの市場動向、市場予測、さらに、ビジネス戦略構想についてまとめた。当調査報告書が皆様のビジネス開発、研究開発、製品サービス開発に少しでも寄与でき

AQU 先端テクノロジー総研
量子未来有望ビジネス市場調査プロジェクト

■調査趣旨

- ・ 当調査は、過去に調査してきた、量子コンピュータ、IT 生命科学、脳科学 BMI・BCI などの重要ポイントも抑えながら、量子ビジネスにおける、新たな視点を持つ、新発想ビジネスとして、量子に関係する脳や意識の関連市場、すなわち量子脳意識関連市場に注目した。
- ・ 量子脳や意識の研究では、2020 年ノーベル物理学賞を受賞したロジャー・ペンローズ博士の主張する量子脳理論や、日本の研究者による受動意識仮説などがある。最近では、人の脳が量子的な機能を持っていることが発表された（ダブリン大学研究者）。人の意識と脳が量子計算によってつながっているとも考えられ、広義的に考えると、意識テクノロジーやブレインテックという世界を含めて量子ビジネスが広がってゆく可能性が高い。
- ・ 当調査は、量子技術を活かした量子応用ビジネスの調査をふまえ、需要動向、関連技術製品の市場動向、市場予測、さらに、ビジネス戦略構想についてまとめた。関係各位のビジネス開発、研究開発、製品サービス開発に寄与することを目的とする。

■最新調査報告書

『量子未来有望ビジネス調査

—新発想による量子応用研究&最先端ビジネス調査予測— 』

<https://www.aqu.com/quantam-mirai-business/>

■関連調査報告書

『低温プラズマ応用産業の可能性と需要探索、市場展望に関する調査
—低温プラズマのアプリケーション開発と、市場予測、ビジネス戦略— 』

<https://www.aqu.com/plasma-business/>

『宇宙テクノロジー、量子メドベッドの可能性と市場展望に関する調査
—情報開示を契機に注目される最先端テクノロジーの未来戦略— 』

<https://www.aqu.com/space-tech-medbed/>

※お問い合わせ連絡先

株式会社 AQU 先端テクノロジー総研

<https://www.aqu.com/>

〒260-0027

千葉市中央区新田町 36-15

千葉テックビル 6F

子安、那須

info@aqu.com

※お問い合わせ連絡先

株式会社 AQU 先端テクノロジー総研
<https://www.aqu.com/>

〒260-0027 千葉市中央区新田町 36-15
千葉テックビル 6F
TEL 043-204-1258
FAX 043-204-1316
子安、那須
info@aqu.com